



水害から 大切なものを 守る

「災害は他人事」と思っていないませんか。記憶に新しい平成29年九州北部豪雨をはじめ、近年、豪雨災害が相次いでいます。メディアなどを通じて、被災地の悲惨な状況を目の当たりにした人も多いはず。災害の脅威を知っているながら、備えのないままではないのでしょうか。梅雨後半の7月は特に降水量が増えます。そこで今月は、万が一の水害に備え、自分や家族、大切なものを守るために、今できること、やるべきことを考えます。

▲大きな被害を受けた朝倉市中村地区（朝倉市提供）

現在も続いている 行方不明者の捜索

県中央部に位置する朝倉市では、平成29年7月に発生した九州北部豪雨によって、33人の尊い命が犠牲になりました。そして現在も、行方不明者の捜索が続いています。

朝倉市は6年前の平成24年7月にも、4日間で750mmもの雨量を観測しました。平成29年九州北部豪雨では、それをはるかにしのぐ、9時間で774mmもの雨量を観測。7月の平均月間雨量の2倍を超える雨が短時間に降ったことで、土砂災害や河川氾濫を引き起こしたのです。

未曾有の災害に どう備えるのか

梅雨期は、大雨による災害が発生しやすい時期です。狭い範囲に短時間で猛烈な雨が降る集中豪雨やゲリラ豪雨が近年増えています。豪雨災害が増えたことで、目を覆いたくなるような光景がテレビや新聞でも多く伝えられています。悲惨な光景に皆さんも「怖い」「かわいそう」とさまざまな感情を抱いているはず。

しかし、多くの人が「自分の身に降りかかることはないだろう」と楽観的に考えているのではないのでしょうか。あるいは「自分の力ではどうしようもない」「何かあったら消防や役所が助けてくれるだろう」と考えていませんか。豪雨や台風などの自然災害は人の力では止められません。ゲリラ豪雨は突発的に起こるため、事前に発生を予測することは困難だと言われています。いざ発生すると、被害が同時多発し、交通網をはじめ電気、ガス、水道といったライフラインが断たれ、消防や救急も人手が足りず、機能しなくなることがあり得るのです。

そんなとき、どうしたらいいのでしょうか。明日起こるかもしれない未曾有の災害にどう備えるのか考えておかなくてはなりません。まず、災害を想定した「備え」をしておくことが大切ではないでしょうか。子どもたちは、学校や幼稚園などで避難訓練をしています。家庭ではどうでしょうか。いざその時が来たら、冷静に判断することは難しくなります。日常の「備え」を徹底し、被害を最小限にする努力が必要なのです。

特集 水害に備える



雨具 身動きの取りやすいカッパがお勧めです。



懐中電灯 できるだけ1人1つ持ちましょう。



薬 持病の薬はいつでも持ち出せるようにしましょう。



救急用品 避難する際に負傷することもあります。傷口の応急処置のために、消毒スプレーやガーゼ、骨折などの処置に三角巾も有効です。



マスク 集団生活を送る避難所では、かぜやインフルエンザなどの感染症が広がるおそれがあります。また粉じん対策にもなります。



非常持出袋 素早く、たくさんの物資を屋外に持ち出すために非常持出用品をリュックなどにまとめ、すぐに持ち出せる場所に準備しましょう。

自分の身は自分で守る

自助

九州北部豪雨発生時に、住民は何を思い、何を必要としたのか。また、行政はどのような対応をしたのか。九州北部豪雨で被災した朝倉市民と、当時の朝倉市役所防災担当課長の声を聞きました。いざというとき、どのような備えが必要なのでしょう。ここでは非常時に備えておきたい持出品の一例を紹介いたします。



飲料水 500ml入りのペットボトルを3本以上持ちましょう。



硬貨 公衆電話で使える10円玉は多めに。



貴重品類 運転免許証や健康保険証、通帳などの写しを備えましょう。



非常食 空いたらそのまま食べられるカンパンや缶詰、栄養調整食品などを備えましょう。



タオルやブランケット 体をふくための小さいタオルや、暖を取るための毛布もあると良いです。



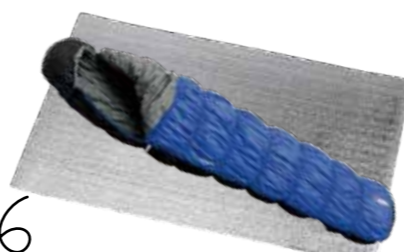
メモ帳 停電時に電子機器が使えなくなったとき、記録、情報伝達などに使用できます。



生理用品 ナプキンやおりのシート、替えの下着なども備えましょう。



情報機器 情報を得るために携帯電話、携帯ラジオがお勧めです。予備の電池を備えましょう。



寝袋、レジャーシート 避難生活でも役立ちます。

まさかここまでひどくなるとは... 多くの支援に感謝

靴も流され 着の身着のまま避難

災害発生当日の午前11時頃までは、まだ雨は弱く、まさかこんな大災害になるとは思いませんでした。午後1時頃には、大雨警報が出た直後から雨脚が強まり、雨粒と雷、濁流の音で防災無線からは何も聞こえません。午後6時頃には、道路は膝上まで水位が増し、とても1人で歩ける状況ではありませんでした。警察や消防団員に抱えられ、小

学校に避難。履いていた靴も流され、着の身着のまま避難したため、当然何の備えもありません。支援物資が届くまで、丸一日何も食べられませんでした。自分でできる備えは、災害を想定し、災害に備えることだと思います。支援がなければ、食べ物も着る物もなく、トイレを使うこともできません。多くの支援をいただいたおかげで避難所生活を乗り越えることができました。支援していただいた皆さんには本当に感謝しています。

松末地域コミュニティ協議会事務局 堀真由美さん
災害時、松末地域住民の安否確認などに尽力しました。

すぐに支援物資を届けるのは困難

特に大きな被害を受けた松末地区は、赤谷川の氾濫によって土地の形状が変わり、どこに川があったのか、境界が分からなくなるほど土砂が堆積しました。災害発生翌日から支援物資を配布しましたが、土砂の影響で主要幹線道路の国道386号が寸断され、一部の避難所には夕方まで配布ができませんでした。このように、行政などの「公

公助はどうしても遅れてしまう まず、自分の身は自分で守ることが大切

助はどうしても遅れてしまいます。まずは、自分の身は自分で守ること、早めに避難することが大切です。また、各家庭や避難所にいると、情報は限られたものしか得られません。テレビやラジオ、防災メールだけでなく、情報を手に入れる手段、方法をいくつも備えておきましょう。もし水害が起きたら、どの道を通って、どこに逃げるのか、家庭や地域で話し、備えておくことも大切です。



朝倉市役所 水資源政策課 草場千里課長
九州北部豪雨時は防災交通課長をしていました。



▲西郷川の四角橋下の水位表示板



▲手光今川の今川3号橋横の水位表示板

市民の皆さんの自主的な防災活動や避難行動を促すことを目的に水位表示板を設置しています。これは、避難情報を発令する際の1つの目安でもあり、西郷川に3カ所、手光今川に1カ所あります。増水時の危険判断材料、自主避難などの基準にもなりますが、雨の規模によっては、確認に行くことも危険が伴います。西郷川の四角橋には水位表示板と河川監視カメラを設置しており、状況を県ホームページで確認できます。

水位表示板を設置しています

防災メールまもるくん登録方法
 携帯電話、スマートフォンから
mamoru@bousaimobile.pref.fukuoka.lg.jp
 に空メールを送信。その返信メールの内容に従って登録してください。

市は気象庁などが発表する大雨警報などの情報を収集し、緊急時に備えています。市内の状況を確認し、土砂災害や河川氾濫などが発生する恐れがあると判断した場合、避難情報を発令します。緊急速報メールや防災行政無線などで情報発信しますが、いち早く情報を得るために防災メールまもるくんを利用しましょう。これは、気象情報や市が発信する防災情報などを携帯電話やスマートフォンにメールでお知らせするもので、情報収集の有効な手段の1つです。これだけでなく、できるだけ複数の方法で情報収集できるように準備しておきましょう。また、防災マップで土砂災害の恐れがある地域なども確認しておきましょう。

防災ワンポイント
 情報を収集する方法を事前に確認しましょう

市民の生命と財産を守る

公助

大規模な災害であればあるほど、市、消防、警察、消防団などによる「公助」への期待は大きくなります。しかし、どうしても公助には限界があります。ここでは、市が発信する情報にはどのようなものがあり、どのように手に入れることができるのか。消防署、消防団がどのような訓練を行い災害に備えているのか、消防署長と消防団長に話を聞きました。

日頃から地域全体で備えることが大切

市消防団は、全13分団、総勢304人のボランティアで構成しています。有事の際には、いち早く現場に駆けつけ、市民の生命と財産を守ります。

消防団員は、火災に備えた訓練だけでなく、水害に備えた水防訓練も実施しています。今年6月10日に福津と宗像の消防署、消防団が合同で水防訓練を実施しました。

消防団と地域が連携することが必要 自主防災組織で防災意識を高めましょう

万が一、大規模な水害が発生した場合、水防訓練の経験を生かし、各分団それぞれが地域の手助けになるよう活動します。しかし、消防団員にはそれぞれの生業があり、直ちに活動できない可能性があります。地域の皆さんが防災の意識を高め、自主防災組織で危険箇所の洗い出しや、支援が必要な人を事前に把握しておくこと。消防団と地域が連携し、日頃から地域全体で備えをしておくことが大切です。

市消防団 小林弘美団長
 19年間消防団員として活動。団長就任2年目。

福津消防署始動 消防力を強化します

九州北部豪雨などの大規模災害を踏まえ、県主催の総合防災訓練が6月3日に古賀市で開催されました。豪雨災害に対応するための迅速な情報収集と伝達。自主防災組織などによる支援が必要な人の避難支援訓練を実施しました。訓練には災害時の連携強化、防災意識向上のため、消防、警察、海上保安庁、自衛隊、消防団などが参加しました。

朝倉のような大災害ではすべての現場に出動は難しい

水害も規模によっては道路が寸断され、消防車が立往生することがあると思います。すべての現場に隊員を出動させることは難しいでしょう。市民の皆さんは、早めの行動を心掛け、危険だと思った場合はすぐに避難してください。

宗像地区消防本部福津消防署 牧吉紀署長
 福津消防署初代署長としての重責を担います。

地域の防災力を高めよう

災害におびえることなく、幸せな毎日を通ずることが理想ですが、災害はいつやって来るかわかりません。

市は、もしもの災害に備え、消防署や消防団を中心に関係各所と連携して、訓練や啓発、情報発信をしています。西郷川や手光今川、日時野からJR鹿児島本線の下を通る道路など、氾濫や冠水に注意が必要な災害危険箇所の視察も行いました。また、非常時の情報収集や災害対策本部機能が途絶えないよう、非常用発電機の整備を進めています。

しかし、市が災害に備えるだけでは十分な備えとは言えません。自分の身は自分で守り、地域で支え合うことが必要です。民間事業者では、6月から水光会総合病院が県の災害拠点病院に指定されました。大規模な災害が起きたとき、24時間体制で診療に当たることになっています。

これらの「自助」「共助」「公助」の意識を強く持ち、さまざまな状況を想定して災害に備えることで、地域全体の防災力が高まります。市民、地域、行政が一丸となって、安全で安心な住みよい市を目指しましょう。



▲市防災安全課 堤田達也課長



▲市主催の避難所運営ゲームに真剣に取り組む参加者。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを避難所に見立てた平面図に配置していきます。

互いの命を
地域で守る

市は避難所運営ゲームを防災力向上のための新たな取り組みとして推進しており、市内各地で実施しています。また、朝倉市の松末地区では、九州北部豪雨以前から地域で支え合い、住民の命を救うための取り組みをしていたのです。

共助

「共助」の精神が
住民の命を救う

朝倉市の松末地区では、過去の豪雨災害の経験から、住民が自主防災マップを作っていました。また、この地区ではお年寄りなど、1人で避難できない人を把握し、避難を補助する住民を決めていたのです。この取り組みによって九州北部豪雨では多くの住民の命が守られました。地域でお互いの命を守り、助け合おうとする「共助」の精神が住民の命を救ったのです。

3・8107

市防災安全課 ☎4

避難所運営ゲームで
防災力を高める

大規模な水害が起きたら、同時に複数の避難所を立ち上げることにあります。「避難所の運営は市職員に任せておけば大丈夫」と思っている人は多いでしょう。しかし、市職員は道路や水路の被害把握、家屋の倒壊状況の調査などの業務に向かうため、運営に関わり続けることができません。

いざという時に備えて、市内各地で地域の防災力を高めようと避難所運営ゲームを実施しています。このゲームは、避難所を運営する立場で、次々にやってくる避難者の状況や要望を考慮しながら、どう対応していくかを体験します。避難所運営能力の向上だけでなく、「人任せにできない。支え合うことが必要」といった気付きを促します。また、同じ地域の人とグループを組むことで地域の輪が広がり、互いに支え合うきっかけにもなります。各地域が、このゲームを通して知識を深めていくことが防災力の向上につながるのです。